年　　月　　日

アクアシール１４００
標準仕様

－コンクリート面－

施 工 手 順 書

工事名称	
所在地	
設計・監理	
請負会社	
施工会社	

大同塗料株式会社

本社　　〒532-0032　大阪市淀川区三津屋北 2 丁目 14 番 18 号
TEL.06-6308-6288　FAX.06-6308-3618

施工手順書

１．適用

１－１．本施工手順書は＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿工事へのアクアシール 1400 標準仕様の施工手順書として適用する。

１－２．本書の適用においてメーカーのカタログや技術資料を参照する。

２．施工上の注意事項

２－１．材料の取り扱い

１）火気に注意し、爆発、火炎等の事故を起こさないようにする。また塗材を拭き取った布、塗材の付着した布片等は速やかに密閉できる空容器に回収する。

２）メーカーの指示に従い適正な取り扱いを行う。

２－２．気象条件

１）温度の影響

気温が 0℃以下の時は施工しないこと。また、日中に気温が上がっても夕暮れから急に気温が低下する場合や、夜間に冷え切った下地が日中になっても温まらない場合がある。性能不良等の原因となるので施工にあたっては十分注意する。

２）風の影響

風速 5m/秒以上の場合は施工を中止する。特にこれが低温の場合は注意が必要である。風のため気温より壁面温度が一層低くなる。風の影響をなくすためシートを掛けることを心がける。また高層の場合、地上よりまして風速が加わるので注意する。

３）雨の影響

塗布した塗材が未乾燥のうちに雨にあたると流出してしまう。施工時はもちろんのこと、施工終了後の気象状況にも配慮することが大切である。また施工前に降雨があった場合には、下地に水分が残り、高い含水率を示すことがある。下地が十分に乾燥したのを確認してから施工に入るようにする。

４）湿度の影響

湿度の高い(85%以上)日に塗装を行う場合は、乾燥が非常に遅く作業性が悪くなる。できるだけ通風を良くする。

２－３．施工条件の管理

１）本施工に入る前に必ず試験塗装を行い、現場管理者の承認を得るようにする。下地の差などからくる提出見本との微妙な相違点は予め承認を得ておくことが大切である。

２）塗材の塗布量が標準塗布量より少なくなると、吸水防止効果のムラ発生の原因となる。塗布量は、平らな面に実際付着させる塗材の標準量とする。

３）足場板の影の部分は、足場ムラが出やすいので細心の注意を払い、足場を外す前に必ず検査をして、ムラがある場合は補修をする。

４）塗装を行う場所は換気に注意して、溶剤による中毒を起こさないようにする。

５）本製品は、多少の臭気と飛散があるので、施工にあたっては周辺環境にも留意する。特に近隣の居住者には事前の説明および了承を得るようにする。

２－４．養生

１）養生は汚れ防止のため入念に行う。特に非塗布面に誤って付着した時は、迅速に拭き取る必要がある。何よりも施工時に十分に気をつけることが大切である。

２）望ましくは、捨てテープ法を用いる。捨てテープは吹き付け後 1 時間以内にゆるやかに取り除く。

３）養生材：ポリフィルム、クラフト紙、新聞紙などを粘着テープにて接着する。接着剤付きの養生材は粘着テープが不要である。

４）注意点：施工面とテープとの境目が蛇行しないように行う。また、風等により簡単に剥がれないようにする。

２－５．塗装面の保護

１）塗材が所定の性能に達するまでの期間は、物との接触、水または油等から保護するため適正な養生を施す。

３．施工手順

[アクアシール 1400 標準仕様　コンクリート面]

３－１．事前確認

１）アクアシール 1400 を塗布した際、稀に風合い変色が発生することがある。これを防ぐための事前確認および塗布量決定のための試し塗りを必ず実施する。

３－２．前処理

１）コンクリート面は、基材内部まで十分に乾燥させる(含水率目安：ケット水分計 6%以下)。

２）塗布対象面に付着した汚れ、粉化物、さび等は除去し、離型剤油脂分などが付着している場合は、ラッカーシンナー・各種工具等で除去する。また水洗する場合は十分に乾燥させる。

３）下地に残留する金属類(鉄筋、セパレーター、番線、釘等)は除去する。

４） 型枠の不陸、目違い、ピンホール、欠損等はモルタル補修材等で処理する(目地モルタルメーカー、補修材メーカーの標準養生期間を厳守する)。0.3mm 以上のクラック、ピンホールは必ず確実に補修する。

３－３．施工

１）アクアシール 1400 は希釈せずそのまま使用する。

２）アクアシール 1400 は乾燥すると塗布面と未塗布面との区別がつきにくくなる。塗りもれのないようブロック毎等、中断することなく連続で塗布する。

３）アクアシール 1400 の塗布量は 1 回塗りで、0.20kg/m^2 とし、指定数量を確実に塗布する。夏季の高温下では粘性が低下し、一回では規定量を塗布できないことがある。この場合は、塗布回数を増やして規定量を塗布する。

４） スプレーや噴霧器で塗布する場合、気象条件により異なるが、0～20%のロスが発生する場合がある。必ず 1 缶あたりの塗布面積を確認し、ロス分を考慮した規定量が塗布されていることを確認する。

５）エアレススプレーの塗布条件：吐出圧 約 3MPa、口径 0.5～0.8mm 程度

ローラーで塗布する場合は、砂骨材ローラー(極細目)が有効で、ローラーをゆっくりと転がして材料を置く感覚で塗布すると規定量が付きやすくなる。既設構造物等の荒れた表面では中毛ローラーの方が有効な場合もある。
噴霧器を使用して塗布する場合は、機種により吐出圧が異なり、また、蓄圧式では徐々に吐出量が少なくなるので、必ず本施工前に塗布条件を確認する。

6）アクアシール 1400 の塗布面は 20℃、24 時間以上乾燥養生する。
＜養生時間の目安＞　20℃　24 時間以上
10℃　48 時間以上
5℃　72 時間以上

7）アクアシール 1400 が塗布面以外に付着した場合、速やかにシンナー等で拭き取る。20℃で約 3 時間を経過すると全く除去できないので注意する。

8）アクアシール 1400 は主成分であるシラン・シロキサンと特殊添加剤の混合物で、乾燥すると特殊添加剤がコンクリート表面に付着する。この特殊添加剤は自然に落ちるが、除去する場合は塗布後(7 日後が目安)十分乾燥していることを確認し、たわし、ブラシ、ワイヤーブラシ等で除去する。アクアシール 1400 塗布後に断面修復の施工や塗料を施工する場合は、必ず除去する。

３－４．検査

1）完了したアクアシール 1400 の塗布面を十分に乾燥させた後に水をかけ、撥水状態と 30 秒から 1 分以内に水濡れが出ないことを確認する。

2）塗布もれ箇所については、乾燥後に所定の量を再度塗布する。